

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市港区海岸通1-1-10	氏名	株式会社 海遊館 代表取締役社長 三輪 年
特定事業者の主たる業種		82その他の教育, 学習支援業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		水族館・商業施設		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	13,668 t-CO ₂	13,655 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,787 t-CO ₂	14,985 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	8.2 %	9.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	7.8 %	6.4 %	8.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度は水族館のろ過循環ポンプ(15kw×7台)にインバーターを設置して、約214kwh削減できた。	駐車場の
蛍光灯184灯をLEDに取替えて約26kwh削減できた。	

(2) 推進体制

省エネ法に基づき、エネルギー使用量および温室効果ガスの排出量の定期報告を行い、温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制対策を実施していく。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1215) ろ過ポンプの循環流量を回転数で制御	水族館循環ろ過システムポンプにインバーターを取り付ける。(11kwのポンプ7台 7.5kwのポンプ6台) (年間 237 t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1217) 昇降設備の更新	昇降設備の更新 8台 (年間 36 t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1214) コージェネレーション発電機運用変更	コージェネレーション発電機の運用の変更 (常用運転から保安用運転に変更 通常は運転しない) (年間 597 t-CO2を削減)	2016 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1125) 冷却塔の注入薬剤の変更	冷却塔の注入薬剤の変更による熱交換効率の改良 (年間 13.7 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	株式会社 海遊館	コード (1218) 蛍光灯をLEDに交換	駐車場の蛍光灯をLEDに取替 (年間 13.6 t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区淡路町 四丁目4番11号	氏名	株式会社ガスアンドパワー 代表取締役社長 伊藤 宗博 印
特定事業者の主たる業種		33電気業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		(1) 電気供給事業 (2) 冷温水、蒸気、その他のエネルギー供給事業 (3) 前各号の事業に関する調査、企画、開発、出資 (4) 前各号に附帯又は関連する一切の事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,280 t-CO ₂	3,384 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,319 t-CO ₂	3,415 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-1.5 %	5.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.4 %	-2.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(送電電力量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度(平成26年度)に対して、最終年度は、下期のガスタービン変更工事に伴い、上期のみの運転でした。このため、送電電力量が大幅に減少し、温室効果ガスが削減する結果となりました。また、買電電力につきましては、基準年度と最終年度で電力会社を変更した関係でCO2排出量が減少しました。
--

(2) 推進体制

①エネルギー管理者の選任を初めとする「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づくエネルギー管理推進体制の整備 ②エネルギー管理標準の設定及び従業員への周知 ③定期的な温暖化対策に関する教育の実施 ④昼間休憩時間の消灯
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1112) エネルギーの使用に関するデータ管理	日間、月間、四半期ごとのエネルギーの使用に関するデータを管理する発電設備の効率を継続監視する。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1114) 定期的な設備の保守点検	春と秋に設備の定期整備を行うことで、最適な設備に継続的に維持管理する。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1111) 推進体制の維持	「エネルギー使用の合理化に関する法律」に基づくエネルギー管理推進体制を維持する。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	西島エネルギーセンター	コード (1112) 薬剤変更の効果に関するデータ管理	防食剤の変更に伴う夏場の復水器真空度の改善を通じて、発電効率の改善を図る。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府門真市中町1番1号	氏名	門真市役所 門真市長 宮本 一孝
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		地方自治法に基づく、事務事業を実施しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
2015 年	4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	28,751 t-CO ₂	30,680 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	30,152 t-CO ₂	32,202 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	11.4 %	12.4 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	10.7 %	11.7 %	-6.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>一般廃棄物焼却処理量が増加したことにより、温室効果ガス排出量は前年度比、基準年度比ともに増加している。</p>
--

(2) 推進体制

地球温暖化対策実行計画（事務事業編）と整合性を図りつつ、エコオフィス推進委員会及びエコオフィス推進員を通じて、毎年度の現状と課題を把握し、温室効果ガス排出量削減に向けた進捗管理を実施します。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全施設	コード (1111) エネルギー管理	使用したエネルギーを把握し、適切な進捗管理を実施します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	全施設	コード (1215) 節電	職場におけるOA機器等の節電を周知・啓発することにより、電気使用量の削減に努めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	全施設	コード (1216) 運転管理	冷暖房の適正温度設定により、エネルギー使用量の削減に努めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1112) 運転管理	日常の運転管理を徹底することにより、高効率運転を行うように努めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1114) 設備等の維持・保守	定期的に設備機器などの点検及び保守を行い、安定した稼働状況を維持します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1121) ごみ質の一定化	安定した燃焼をするために、一定のごみ質になるように努めます。また、空気比をごみ質に応じ、最適な状態に設定します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1122) 運転管理	空気設備の温度設定を最適に行えるように運転管理し、不要時においては、適宜電源を切ります。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1126) 負荷の低減	台数制御により出力及び圧力を適正に調整し、電動機の負荷を低減させます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (5121) 氷蓄熱	夜間電力を利用して、氷（夏季）やお湯（冬季）を作り昼間の空調に使用します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (1299) 低温触媒の導入	ごみ焼却施設の脱硝反応塔において、低温触媒を導入することにより、エネルギー使用量の削減に努めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
11	レ GHG排出	門真市クリーンセンター	コード (5115) デマンド監視装置	デマンド監視装置により、ピークカットを行うことで、電気の平準化を図ります。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全施設	コード (2112) 燃料使用量の把握	走行距離及び使用した燃料を把握することにより、過去と比較することで動向を確認します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

2	レ	GHG排出	全施設	コード (2123)	エコドライブの周知・啓発を徹底します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱		エコドライブの 推進		

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	北海道札幌市中央区大通東3丁目1-19 Kビル	氏名	株式会社 カナモト 代表取締役 金本 寛中
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		建設機械器具のレンタル、鉄鋼製品の販売、及び情報関連機器のレンタル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,640 t-CO ₂	5,282 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,674 t-CO ₂	5,311 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.8 %	-31.5 %	-45.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-2.6 %	-31.1 %	-44.6 %	
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

車両台数の増加により、温室効果ガスの増加につながったと思われる。

(2) 推進体制

所内の使用エネルギー削減の為、各使用エネルギーに対する使用状況の把握を行い、その上で具体的な削減目標の実行を進めてゆきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪中央営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪東営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪南営業所	コード (1126) 消灯の適正化	工場設備のこまめな消灯	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪北営業所	コード (1122) 空調設備の運用改善	冷房温度27℃ 暖房をエアコンから直接過熱 (ストーブ) へ	年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪中央営業所	コード (2123) エコドライブの推進	水銀灯をLED照明導入	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪東営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブに勤めます	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪南営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブ推進に勤めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	大阪北営業所	コード (2123) エコドライブの推進	各車両ごとのエコドライブ推進に勤めます。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大坂府大阪市北区中之島2-3-18	氏名	株式会社 カネカ 代表取締役社長 角倉 護
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		化成品、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品、医薬品、医療用機器、電子材料、合成繊維の製造及び販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	41,731 t-CO ₂	39,334 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	41,811 t-CO ₂	39,408 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-2.4 %	1.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-2.4 %	1.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(換算生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪工場では、塩化ビニール・発泡樹脂・機能性樹脂など原材料の製造と医療機器製造を行い、まったく品種の違う製品を製造しているため、単純原単位では各製品の生産量の増減により原単位が大きく変動するため、会社の方針としてエネルギー使用量の一番多い高砂工業所の苛性ソーダの原単位を基準とし、生産量換算法にて原単位指数を算出し報告する。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

第3年度での削減率は-2.0%であり、目標である3年間での3.0%以上の削減には至らず。主な原因として、工場部門におきましては、基準年度と比較し、換算生産量が減少してしまった為です。しかしながら、外部業者による省エネ点検の実施や保温劣化箇所への補修、照明のLED化、設備更新時の高効率な機器の選定等を進めており、省エネ努力による成果は確実に出ております。またH28年度より電力・蒸気見える化システムの導入を順次進めており、エネルギーマネジメントの強化も実施しております。

研究部門におきましては、老朽蒸気配管保温更新やトラップ改善に取り組み蒸気使用量削減を実施しております。本社部門におきましては、昼間電力のピークカットに取り組んでおります。

(2) 推進体制

<p>工場長がエネルギー管理手続きを定め、エネルギー管理の統括的責任を持つと共にエネルギー管理委員会の委員長を務める。各部署長は、自部署のエネルギー管理に関する責任と権限を持つと共にエネルギー管理委員会の委員を務め、自部署のエネルギー管理標準を作成し、下記の①～⑤の管理を行う。 動力TLは、エネルギー管理委員会の事務局を運営し、エネルギー管理士はエネルギー管理委員会の事務局員を務める。又、各課省エネ改善推進提案の支援を行っている。</p>
<p>①運転管理基準の制定・改訂 ②エネルギー原単位又は使用量の管理 ③エネルギー使用設備・機器の維持管理 ④エネルギーの使用に関する測定・報告・記録 ⑤運転管理基準の遵守状況の記録</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 効率の良いプロ ワワーに更新する	高効率プロワワーへ更新による省電力	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (5111) 効率の良いエア コン・空調機に 更新する	各室老朽エアコン更新による省電力 空調機更新による省電力、新規設置時の最適機 種の選択 ⇒H27, 28年度 一部機器実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 機器放熱診断に よる保温二重化	蒸気配管の保温強化(e-エム工法)による蒸気ロ スの削減	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (5112) LED照明へ取替 え、新規LED照明 採用	既設照明老朽化に合わせた、LED照明への取替 え 新規設置照明への積極的なLED照明採用 ⇒H27, 28, 29年度 一部機器実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (5221) スパコンの設置 によりエアコン の効率アップ	エアコン・空調室外機へのスパコンの設置によ る省電力 ⇒H27年度 HTX一部機器実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 効率の良い圧縮 機を使用する、 台数削減	計装空気圧縮機統合化による省電力	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
7	レ	GHG排出	大阪工場 大阪本社 大阪工場RDエ リア	コード (1199) クールビズ期間 の延長	工場のクールビズの期間を6月初め～9月末で あったのを、5月16日～10月15日まで延長し、 エアコン電力使用量を削減 ⇒H27, 28年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
8	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1199) 夏季、冬季節電 期間の節電呼掛 け	・エアコン設定温度管理強化 ・昼休み・退場時の不要照明消灯徹底 ・パソコンスリープモード活用 ・待機電力削減 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1114) スチームトラッ プ診断による漏 れロス管理	スチームトラップ診断器・メーカー活用し、漏 れ有るスチームトラップ取替えによる蒸気ロス 削減 ⇒H27, 28, 29年度 一部トラップ整備実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) インバーター制 御化	EG循環ポンプインバーター制御化による省電力 ⇒H27年度完了	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) インバーター制 御化	CAPチラー送水循環ポンプインバーター化によ る省電力 ⇒H27年度完了	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
12	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) エアラインの ループ化	KVC工程エアラインループ化による省電力 ⇒H27年度完了	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
13	レ	GHG排出	大阪工場RDエ リア	コード (1112) 電力使用量デー タロガー導入に よる省電力	電力盤へのデータロガーを設置し主要建屋での 電気使用量の見える化の推進 ⇒H27年度データロガー設置	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度

			よる管理強化			
14	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1218) 照明消灯システム導入	フロア夜間一斉消灯システム導入(20時と22時に一斉消灯)による残業時間削減啓蒙と消灯励行 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
15	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1113) 照明消灯励行	人のいないエリアの消灯励行 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
16	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1113) 空調時間の短縮	オフィス内でも常時は人がいないエリア(応接室、会議室、倉庫)について、環境状況を精査し、空調時間の短縮運転を検討 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
17	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1113) 空調時間の短縮	休日出勤時の空調運転時間、エリアを極力抑制 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
18	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1112) 室内環境の計測	執務室内空調は、室内環境状況を計測把握し、効率的な設定運転を継続(夏季のサーキュレーター併用運転(室内空気循環)、春季・秋季の昼休み空調停止) ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
19	レ	GHG排出	大阪工場RDエリア	コード (1114) 蒸気漏れ箇所の修理	蒸気配管の保温強化、ドレントラップの診断、修理。未使用ラインの整理。 ⇒H27, 28, 29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 減圧弁により蒸気圧力を下げ放熱ロスの削減	設備昇温条件見直しによる蒸気の圧力減圧を実施。 ⇒H28年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
21	レ	GHG排出	大阪工場RDエリア	コード (1112) 電力使用量データロガーの活用	系統で300Kwh/月以上使用している箇所について抽出し、改善実施。 ⇒H28年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度
22	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 発生蒸気圧力減圧による放熱ロス削減	ボイラーからの発生させている蒸気圧力を1.80MPa⇒1.65MPaへ減圧を実施。 ⇒H29年度実施	年度
		人工排熱				～
		平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2112) 自動車走行距離・燃料使用量の管理	自動車運転距離の長くなる構外への移動において、走行距離の記録をおこなう。また、燃料使用量について記録する事で燃費管理を推進。	年度
		人工排熱				～
						年度

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市新町2丁目5-1	氏名	学校法人 関西医科大学 理事長 山下 敏夫
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		関西医科大学枚方学舎 関西医科大学附属病院 関西医科大学総合医療センター 関西医科大学香里病院 関西医科大学枚野学舎(関西医科大学附属看護専門学校) 関西医科大学附属天満橋総合クリニック 関西医科大学情報交流センター		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	29,898 t-CO ₂	28,184 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	32,226 t-CO ₂	30,315 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	-1.2 %	5.0 %	2.9 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	5.1 %	3.3 %	6.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

総合医療センター(旧滝井病院)の建替整備が完了し、当初予測した電気・ガス使用量より減少したため、基準年度(平成26年度)の総排出量(29,898 t-CO ₂)と前年度(平成29年度)の総排出量(28,184 t-CO ₂)との比較では、5.8%の削減となりました。 今後も一層の省エネルギー対策活動を推進し、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。
--

(2) 推進体制

<p>全学にて省エネルギー推進委員会と省エネルギー実行委員会を設け、職員及び学生に温暖化防止や省エネルギーに対する啓蒙活動を行う。 夏季の冷房設定温度を28℃として、省エネ巡回を実施する。 不必要な空調の停止、照明の消灯を行い、診療及び研究活動に支障がない範囲で省エネルギーに努める。</p>
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 推進体制の整備	省エネ意識の向上・ポスター掲示・重点広報・年間光熱費メールにて配信 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 運転管理	冷暖房の運転制御・管理システムの運用 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 運転管理	休日・夜間のエレベーター運転時間の調整 ⇒H29年度、一部実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明間引	不要照明の消灯 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	附属病院	コード (1113) 運転管理	効率と経済的観点からコージェネレーション設備の運転におけるデマンド抑制 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 推進体制の整備	各部署で省エネルギー巡視活動として(省エネ・エコ活動)、1週間に1回巡視を行う。 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1299) 設備導入	エアコン更新時(電化製品)には省エネ対策商品の選定を行う事とする。 ⇒H29年度、実施済み。	2015年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全車がエコドライブを実施 ⇒H29年度、実施済み。	～ 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市稲田上町2-8-63	氏名	株式会社 関西オカムラ 代表取締役社長 中村 雅行
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		オフィスシステムや収納システムを主体に生産している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	4,671 t-CO ₂	5,320 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,081 t-CO ₂	5,786 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	6.2 %	9.9 %
削減率(平準化補正ベース)		-	6.0 %	9.9 %	14.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度の生産量は前年比107.2%となった。天板組立ライン変更による生産性向上、及びボイラー更新によりエネルギーのムダを排除</p>
--

(2) 推進体制

毎月省エネパトロールを実施し、指摘改善を環境対策会議で報告・確認する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1112) インバーター制御にし効率アップを図る	コンプレッサー台数制御による最適運転。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1113) 設備が必要な圧力の再設定の実施	設備使用圧力の見直し及び再設定。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1113) 不用時に停止させる	7分稼働時の空運転の削減及び制御変更。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1121) 焼付け温度の再見直しを行う	塗装乾燥炉設定温度の見直し。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1114) 故障時間を削減しエネルギーロスを無くす	チョコ亭、故障時間の削減	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1215) 塗料循環が不要なタイプへ変更	電着塗料変更による電力使用量削減。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1113) 排熱を利用しガス使用量削減	脱臭炉排熱再利用によるガス使用量削減。(CL014)	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1114) 再塗装品を削減しエネルギーロスを無くす	工程間(塗装)不良の削減	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1211) 乾燥炉廃止	UV接着方法変更・・・PUR塗布による遠赤乾燥炉使用停止。遠赤乾燥炉のコンベア、ガス使用量削減。	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1215) 省エネモーターへ変更	高効率モーターへの変換・・・トプラナー方式モーターの採用	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1215) 設備更新	550 t 成形機更新・・・330 t 成形機に変更による電力量削減	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1215) ライン変更	縁貼り1号機ライン変更・・・ライン変更による稼働時間削減	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1211) インバーター制御による効率アップ	ボイラー更新、台数制御による消費電力・ガス削減	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1113)	組立コンプレッサー排熱利用による冬期空調電	2017 年度

14	レ	人工排熱	関西オカムラ	排熱を利用し電 気使用量を削減	力削減	～ 2019 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	関西オカムラ	コード (1112) インバーター制 御による効率 アップ	ドライバー台数制御による最適運転	2017 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市中宮東之町16-1	氏名	学校法人 関西外国語大学 理事長 谷本 榮子
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		◆中宮キャンパス 大学院、大学（英語キャリア学部、外国語学部）、短期大学部 ◆学研都市キャンパス 大学【英語国際学部（国際言語学部）】 において教育を行っている大学 ※平成30年4月 御殿山キャンパス・グローバルタウン開学（学研都市キャンパスより移転）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	7,202 t-CO ₂	6,253 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	7,978 t-CO ₂	6,842 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率（排出量ベース）	%	%	%
		削減率（原単位ベース）	3.0 %	5.3 %	12.0 %
削減率（平準化補正ベース）		-	5.8 %	12.9 %	14.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値（建物延床面積、教室使用コマ数率）

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

延床面積のうち、主に授業使用を行う建物（教室棟）に対して基準年度の授業コマ数7,691（中宮5,961+学研都市1,730）で各年度の授業コマ数を割ったものを係数として掛けて計算する。※平成29年度の授業コマ数7,951（中宮6,511+学研都市1,440）
 原単位＝総延床－教室棟延床＋（教室棟延床×係数）

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度も気候が厳しく、教室等の施設使用も多かった為に全体的に空調消費が多かった。エネルギー使用量は基準年度と比較して若干増加している。しかし、平成28年度より中宮キャンパスの買電電気事業者を関西電力から丸紅新電力に変更した影響で温室効果ガス総排出量においては大幅（13.4%）な削減率となった。
--

(2) 推進体制

総務部長を本部長とした「省エネルギー推進委員会」にて定期的に進捗状況報告会を実施して目標達成に向けて取り組んでいきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1112) エネルギー使用データ管理	エネルギー使用量と施設利用状況を把握して効率的な機器運転を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 過剰時間運転の防止	施設の実使用時間を明確にして過剰時間運転のないように努める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1114) 空調フィルターの清掃	空調機器フィルター清掃を定期的実施して不効率にならないようにする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	片鉾総合体育館	コード (1218) 水銀灯器具のLED化	消費電力の多い水銀灯器具をLED器具に更新する。(年間71t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	中宮キャンパス	コード (5231) 水蓄熱槽による電力ピークカット	夏期の電力ピーク時間帯に水蓄熱槽を運転してピークカットに努める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	中宮キャンパス	コード (1218) 水銀灯器具のLED化	消費電力の多い体育館アリーナ水銀灯器具をLED器具に更新する。(年間76t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2122) 社用車使用の抑制	社用車の使用を控えて公共交通機関を利用するよう促進していく。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

		大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪タワーA23F	氏名	関西キリンパレシマサービス(株) 取締役社長 吉村 智士
特定事業者の主たる業種		58 飲食料品小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は2t～3tトラックで自動販売機を定期的に巡回し商品の補充、売上金の回収のほか新商品の投入等、販売促進活動を行っており、全事業所14支店のうち大阪府下に5支店があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	803 t-CO ₂	857 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	803 t-CO ₂	887 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択		%	%	%	%
	レ	9.4 %	-4.8 %	-26.9 %	-6.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-32.7 %	-10.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府下の当社自動販売機台数)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

削減率ですが原単位を小数点以下5桁までを計算しております。小数点以下二桁(三桁目四捨五入)では数字が小さすぎ計算できません。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成28年度に1事業所増になり、また以前の支店より遠くなったことが削減できなかった理由になります。

(2) 推進体制

1. エコ運転の徹底促進
2. プレハブ冷蔵庫の稼働期間の短縮による使用電力の削減
3. 移転の際は、照明をLEDに変更

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全事業所	コード (1126) 不在時の消灯等 の徹底	事務所不在時の消灯及び空調のオフの継続	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	全事業所	コード (1112) 時間短縮取り組 み	時短による電気設備の使用時間短縮 総実働をH27年2500HからH28年に2375H時間(5%) に短縮し、電気設備の使用時間を短縮する	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	全事業所	コード (1112) プレハブ冷蔵庫 の稼働期間短縮	プレハブ冷蔵庫(12坪)稼働期間の短縮 商品管理の見直しにより冷蔵保管期間を今までの 通年から6～9月4ヶ月間に大幅に短縮	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) アイドリングス トップの徹底	アイドリングストップの徹底 ほぼ徹底できているが小型車がまだ不徹底 啓蒙ポスターを配布徹底を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	エコドライブ10か条 昨年 度と今後の実績の比較分析をしながら指導を継 続	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
3	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	ゆっくり3 (ゆっくり発進・ゆっくり走ろう・ ゆっくり停まろう) ・ど～んと3 = D o N o t 3 (急ぐな・焦るな・無理するな) 徹底指導	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	兵庫県神戸市西区高塚台7丁目1番	氏名	関西グリコ株式会社 代表取締役 松下 明信
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・当社は江崎グリコ株式会社の子会社であり、本社は神戸市西区 ・当工場は江崎グリコで販売するチョコレート菓子及び打錠菓子の製造を行っている。 		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,441 t-CO ₂	5,549 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,795 t-CO ₂	5,722 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.1 %	12.4 %	13.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	14.8 %	15.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>2017年度は2015年度導入した冷蔵装置や空調設備に使用している冷却塔の循環水の薬注管理を継続実施し冷却塔の効率運転及び冷蔵・空調設備の効率運転の効果が継続でき電力、都市ガスの使用量が減少した。また、生産金額も増加及び比較的エネルギー使用量が少ない商品の生産が増加したため、原単位の温室効果ガス排出量が大きく減少した。</p>

(2) 推進体制

江崎グリコグループ全体で省エネ推進組織を設け、月々のCO2排出量等の実績評価及び改善情報の交換を実施し、成果のあがる取組を目指します。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) 空調機全般 継続中	<ul style="list-style-type: none"> 空調機の運転台数を気温に応じて増減管理 ⇒ 継続実施中 休日の生産停止時の空調設備運転停止 冷却塔の薬注管理による効率運転 ⇒ 効果大 (薬注使用量削減) 	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) エアー使用機器、コンプレッサー 継続中	<ul style="list-style-type: none"> コンプレッサーの稼働台数制御 ⇒ 継続実施中 エアー洩れ箇所の点検・修理 ⇒ 毎月担当を決めて実施中 	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1113) 生産設備全般運転時間管理 継続中	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備の準備・終了時の運転時間削減 ⇒ 担当を決め点検実施中 カレンダータイマーによる自動運転・停止 	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (1218) 省エネ照明導入 平成30年度に実施	<ul style="list-style-type: none"> 照明をLED (CCFL含む) に更新 ⇒ 高額になるため再検討中 ⇒ H30 工場一部導入 7月完了予定 	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	大阪ファクトリー	コード (5999) 電力ピーク対応 継続する	<ul style="list-style-type: none"> 昼間のみコージェネ運転 7:00～21:00運転中 一部生産部門の夜間稼働へのシフト ⇒ 現時点では未実施 	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪ファクトリー	コード (2123) エコドライブの 推進	車両使用者全員へのエコドライブの周知・徹底 ⇒ 継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地	氏名	関西国際空港熱供給株式会社 代表取締役社長 ブノア・リュロ
特定事業者の主たる業種		35熱供給業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		関西国際空港島内における熱供給事業（冷水及び蒸気の供給）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,292 t-CO ₂	6,254 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,647 t-CO ₂	7,763 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	0.4 %	-18.3 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.6 %	-17.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>高効率ポンプへの更新、冬期における冷水供給温度の変更、使用しない配管の休止措置による放熱ロスの低減を実施し、省エネ・温室効果ガス排出量の削減を行いました。 しかしながら、空港利用客の増加や猛暑等の影響により熱需要が増加し、エネルギー消費量(ガス及び電気消費量)並びに、温室効果ガスの排出量の増加となりました。 現在、高効率冷凍機への設備更新工事を進めており(平成31年9月竣工予定)更なる省エネ・温室効果ガスの削減を目指しています。</p>

(2) 推進体制

・「エネルギー管理規程」を制定し、常務取締役を長とし技術部長を責任者とした「エネルギー管理体制」を確立すると共に、「エネルギー管理標準」に基づき、日常における効率的な設備運用状況等を確認し、異常の早期発見によるエネルギーロスの防止ならびに設備改善方法他についての検討に取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1225) 地域導管熱ロス削減	南地区地域導管大規模修繕に伴い、不要となった導管を撤去し、熱ロス低減を図る。 CO2削減目標：54 t	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1225) 冷水供給温度の見直し	冷水供給温度を見直し熱ロスの低減を図る。 CO2削減目標：51 t	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1113) ボイラー運用方法の見直し	ボイラーの運用方法の見直しによる消費電力削減 CO2削減目標：50 t	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (5121) 氷蓄熱装置の活用	氷蓄熱装置の活用により、夏期における電力需要の平準化を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西国際空港熱供給株式会社	コード (1299) 高効率冷凍機の導入検討	吸収式冷凍機の更新計画にあたり、さらに効率のよい機器の導入を検討する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市住吉町25番地	氏名	関西製糖株式会社 代表取締役社長 酒井英喜
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		砂糖の精製及びバイオ製品の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	27,200 t-CO ₂	27,330 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	27,413 t-CO ₂	28,106 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-0.4 %	-5.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.4 %	-7.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産数量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>工程カ-濃度の向上や結晶缶差し水減少等の改善活動を継続し、使用蒸気量の削減に努めたが、生産数量の減少と共に需要の糖種比率の変動により需要供給優先の為、製品をM/L製造へ戻す運転を行った結果、結晶缶の稼働率が上昇し燃料使用量が増加した。また、固形砂糖を過熱溶解される液糖需要の増加、品質維持、トラブル等で工程内再原料化の為、製品工数の増により燃料使用量が増加した要因も挙げられる。</p>
--

(2) 推進体制

省エネルギー推進委員会及び事務局を中心とした、使用燃料の合理化及び効率化、電気量の削減を目的とした取り組みを継続的に実施しています。また、毎月開催される業務検討会（幹部会）の中で、ユーティリティー関連の原単位管理状況を精査し、社長をトップとする経営陣も直接に改善検討に参画することで、実効ある温室効果ガス削減対策に取り組むことが可能な社内体制を維持・継続しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	関西製糖(株)	コード (1212) 熱利用設備の効 率的運転	工場の使用蒸気の60%を占める真空結晶缶の効 率且つ総合的な運転管理を行うことで、蒸気量 の削減に伴う使用燃料の削減で、温室効果ガス の削減を目指す。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	関西製糖(株)	コード (1215) 電気利用設備の 効率化	工場の系統ごとに電気使用設備を把握し、省エ ネ運転及び設備を効率化することで、温室効果 ガスの削減を目指す。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

	届出者	住所 大阪府吹田市山手町 3丁目3番35号	氏名	学校法人 関西大学 理事長 池内 啓三
特定事業者の主たる業種		81学校教育		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		教育、学習支援業を行っており、大学（法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、外国語学部、総合情報学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部）及び大学院、高等学校、中学校、幼稚園ならびにエクステンション・リードセンター等事業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	30,709 t-CO ₂	26,309 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	33,103 t-CO ₂	28,578 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	3.1 %	9.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	2.5 %	13.0 %	9.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(建物延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>温室効果ガス削減の一環のうち、節電対策として昨年度に引き続き省エネ推進委員会において節電対策実施徹底(照明の間引き、夏場における空調温度28℃設定の遵守、昇降機の一部停止及び階段使用励行など)を実施した。また、建物の増改築に合せ照明のLED化を順次行った結果、基準年度比(原単位)にて15.4%の削減を図れた。なお、次年度以降も引き続き節電対策を徹底し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいく。</p>
--

(2) 推進体制

法人部長を委員長とする省エネルギー推進委員会を設置して省エネルギー活動を推進し、エネルギー起源の温室効果ガス（CO2）の削減活動を展開する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 適正な運転管理	省エネルギー法の管理標準に基づきエネルギー供給設備、エネルギー使用設備の適正な運転管理を継続実施する	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1114) 適正な保守および運転	省エネルギー法の管理標準に基づきエネルギー供給設備、エネルギー使用設備の適正な運転管理を継続実施する	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1216) 高効率熱源機及び回転数制御システムの導入	新築建物を主体として高効率熱源機の採用及び空調用ポンプ、ファン等の回転数制御を導入して空調用エネルギーの節減を図る	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 高効率照明器具及び調光システムの導入	新築建物を主体として高効率照明器具の採用及び調光・自動点灯のシステムを導入して照明用エネルギーの節減を図る	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1125) 高効率変圧器の導入	変圧器にトップランナー基準の高効率変圧器を導入する	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1214) コージェネレーションシステムの導入	新築建物を主体として、コージェネレーションシステムを導入し、排熱の利用を図ってCO2の発生を抑制する	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	千里山・北陽・高槻 ミュージック キャンパス	コード (2123) 公用車のエコドライブの実施	公用車の全てについてエコドライブを実施する	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

千里山キャンパスにおいて下記の対策を実施している。 1. コージェネレーションシステムの導入 ガスエンジン駆動による600kW×2台（H12年9月導入）、815kW×2台（H18年2月導入）、合計4台のコージェネレーションシステムの導入 2. 太陽光発電設備の導入 太陽電池利用による76kWの太陽光発電システムの導入（20kW・H18年2月導入、30kW・H19年3月導入、10kW・H20年3月導入、5.5kW×3・H25年9月導入） 3. 特別高圧受変電設備の更新（H26年8月）

高槻ミュージックキャンパスにおいて下記の対策を実施している。 1. コージェネレーションシステムの導入 ガスエンジン駆動による400kW×2台（H22年4月導入）のコージェネレーションシステムの導入 2. 太陽光発電設備の導入 太陽電池利用による10kWの太陽光発電システムの導入（H22年4月導入） 3. 風力発電設備の導入 風力利用による4kW×3台の風力発電システムの導入（H22年4月導入）

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区扇町2-1-7	氏名	関西テレビ放送株式会社 代表取締役社長 福井 澄郎
特定事業者の主たる業種		38放送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		テレビジョン放送(関西圏地上波)を主に行っており、イベント事業・インターネット事業等の関連事業も行っている		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	9,585 t-CO ₂	9,565 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,497 t-CO ₂	10,483 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-0.8%	-1.4%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.7%	-1.8%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>特定事業所(本社屋)において、CVCF設備を更新し、年度下期より仮運用が始まりました。設備容量は倍増となりましたが、高効率機器の導入により消費電力は、削減の方向となっております。又、3年間で実施した空調熱源更新が一旦落ち着き、工事期間中の運転調整による効率低下が収まり、ようやく削減傾向に転じました</p>
--

(2) 推進体制

<p>夜間蓄熱設備の活用効果をも高める様に運転時間帯を調整する 建物設備機器の更新による省エネルギー化を中長期的に実施する</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空調温度設定の抑制	夏季期間(5月初旬～10月中頃)にクールビズを実施し、空調用電力及びガスの使用量を削減する 毎年5月初旬～10月下旬実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社屋	コード (1126) 照明設備の見直し	照明器具更新に際し、LED化の検討を推し進める 平成27～29年度に一部実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社屋	コード (1126) 高効率の熱源機器を導入する	C V C F 設備の更新時に、高効率機器の選択し消費電力を削減(仮運用) 平成29年度実施	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 事務所等の照明器具の間引き、不要時消灯	事務所及び廊下等の間引きを行い、不要時の消灯に努める 平成27～29年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	本社屋	コード (1113) 熱源機器の運転時間帯調整	空調熱源機(夜間蓄熱含む)の運転時間帯を調整し、電力デマンドを抑制する 平成27～29年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社屋	コード (2123) アイドリング抑制と待機時のエンジン停止	異動時以外の燃料使用の抑制 平成27～29年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島3丁目6番16号	氏名	関西電力株式会社 取締役社長 岩根 茂樹
特定事業者の主たる業種		33電気業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社が保有する火力発電所、原子力発電所および水力発電所等で発電した電力および他社から購入した電力の供給。 ◆設立：1951年（昭和26年）5月1日 ◆資本金：4,893億円（平成29年度末） ◆従業員数：20,848名（平成29年度末） ◆販売電力量：1,152億kWh（平成29年度） ◆最大電力：3,306万kW（平成13年8月2日）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日（3年間）

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（2014）年度	前年度（2017）年度
温室効果ガス総排出量	300,068 t-CO ₂	241,108 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	304,971 t-CO ₂	245,468 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率（排出量ベース）	3.0%	7.3%	11.2%
		削減率（原単位ベース）	%	%	%
削減率（平準化補正ベース）		-	7.3%	11.1%	19.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率（原単位ベース）を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（ ）
（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解（計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由）

府内の温室効果ガス総排出量の約8割を占める火力発電所からのCO ₂ 排出量は、稼働率が減少したため、基準年度のH26年度と比べて約22.2%削減となりました。 また、温室効果ガス総排出量の約1割を占める一般事業所等からのCO ₂ 排出量は、照明消灯の節電行動の推進等により、基準年度のH26年度と比べて約9.5%の削減となりました。
安全確保を大前提に、長期的なエネルギーセキュリティの確保や経済性、環境問題への対応を加えた「S+3E」の観点から、最適なエネルギーミックスの追及を基本として、引き続きCO ₂ 排出抑制に努めます。

(2) 推進体制

<p>CSR推進会議「環境部会」（主査：環境担当役員、副主査：環境室長）を設置し、全社の環境管理に関する具体的な行動計画であるエコ・アクションの策定およびチェック・アンド・レビューなどを実施しています。「環境部会」の下部組織として「環境問題対応ワーキンググループ」を設置し推進体制の充実を図っています。</p>
<p>全社の環境管理は環境室長が業務遂行し、各所の環境管理は各所の長が責任者となり実施しています。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺港発電所	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理基準を定め、それを運用することで発電効率の維持に努めました。 ・H29年度実績：約0.51%低下(根拠資料①-1参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	南港発電所	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理基準を定め、それを運用することで発電効率の維持に努めました。 ・H29年度実績：約0.69%低下(根拠資料①-1参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	関西国際空港 エネルギーセンター	コード (1214) 発電熱効率の維持	省エネ法に基づき管理基準を定め、それを運用することで発電効率の維持に努めました。 ・H29年度実績：約4.69%低下(根拠資料①-1参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	新北別館	コード (1218) 省電力型照明機器の導入	順次省電力型照明器具 (HFタイプ) 化を行う予定でしたが、H29年度は予算都合により対策未実施となりました。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	本店	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減	高い省エネ性能を有するオフィスビルにおいて、省エネ運用の維持・管理(減灯、OA機器の電源管理、空調設定の最適化等)を実施しました。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	関西電力病院	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減削減	新病院におけるエネルギー消費量把握、省エネ機器の稼働(性能)確認、省エネ方針検討しました。 ・H29年度実績：約9.7t削減(根拠資料①-2参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	全事業所	コード (1113) 事務所エネルギー使用量の削減	不要な場所・時間帯における照明消灯、OA機器の電源管理、空調設定の最適化等を継続実施しました。 ・H29年度実績：約3,600t-CO2削減	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	電力所、発電所	コード (1225) SF6ガス回収装置の活用	ガス絶縁しゃ断器等の設備点検、除却時におけるSF6ガス回収率の維持に努めました。 ・H29年回収実績：約99.1%(根拠資料①-3参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	アイドリングストップ等エコドライブの推進・実践により車両燃費の維持・向上に努めました。(根拠資料②参照)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	支社、営業所、電力所等	コード (2121) 電気自動車等の導入	電気自動車およびプラグインハイブリッド車を導入しました。 ・H29年度末府内保有台数：114台	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

◆火力発電所の熱効率維持・向上と天然ガスの更なる利用

当社管内の火力発電所については、設備や運用に関する対策を継続的に行った結果、火力発電所の総合熱効率（低位発熱量基準）は48.3%となりました。

また、相生発電所（1、3号機）では、これまでの重油・原油に加えて、より安価で環境性に優れる天然ガスを燃料として利用しています。

◆再生可能エネルギー普及・開発

既設水力発電所の設備改修を通じ、水力発電の出力向上に取り組んでいます。平成29年度は、富山県黒部市の「黒部川第二発電所」の水車発電機の設備更新を行い、最大出力が72,000kWから72,500kWに向上しました。

◆お客さまと社会の省エネ・省CO2への貢献

ご家庭のお客さまのご要望に応じた省エネコンサルティング活動や、インターネットを活用した電気のご使用状況の見える化サービス「はびeみる電」のご紹介の実施、法人のお客さま設備に対する最適なエネルギーシステムとその運用方法などのご提案を行いました。

実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市横江1-7-1	氏名	関西図書印刷株式会社 代表取締役社長 伊藤 徹
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		近畿・中国地方向けに読売新聞、報知新聞、その他オフセット印刷物の印刷		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,217 t-CO ₂	4,660 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,682 t-CO ₂	5,090 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	4.8 %	9.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.7 %	9.3 %	10.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>熱源設備の更新により、消費電力が削減された。</p>

(2) 推進体制

ISO14001を認証取得済であり、推進組織のもとで温室効果ガス削減に取り組みます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	冷暖房を適正な温度に設定し、省エネを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	不要時の消灯厳守の再徹底を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	離籍時のパソコンの電源オフを徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1217)	エレベーター4台の使用時に「1up2down」の札を取付、エレベーターの消費を抑える。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	変電設備等、工場施設の間引き照明を実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	空調運転スケジュールを見直す	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1299)	熱源機器更新時に高効率機器への更新を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1218)	直管40W白色蛍光灯を順次36Wタイプに取り換える	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	茨木工場	コード (1113)	夏季期間中の館内トイレ洋式便座ウォシュレットの温水、便座の待機電力をOFFにする	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉大津市我孫子1-3-37	氏名	関西トランスウェイ株式会社 池辺 義博
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般貨物運送業・主に食品の輸送ならびに倉庫業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,201 t-CO ₂	8,561 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,322 t-CO ₂	8,888 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-8.5 %	-26.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-11.7 %	-31.5 %	-40.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成28年度に新設した南大阪物流センター(岸和田市)が平成29年度より本格的に稼働し始めて電力使用量が増加した。それにともない、使用する自動車総台数も増加(基準年度(H26)より96台増加)したこともあり、温室効果ガス総排出量が増加し、削減が困難な状況になっている。</p>
--

(2) 推進体制

<p>定例の月1回の各営業所の運行管理者による会議等で、エコドライブについての意思統一を図る。・エコドライブの推進（運転者教育）・貨物積載効率の向上（荷姿の見直し）・輸送効率の向上（ルートの見直し）を常時行う。センター内の冷凍・冷蔵庫の稼動が夏季に電力量が増える分、冬季に調整している。</p>
<p>全車に取付られていないドライブレコーダーの導入を随時すすめ、危険運転の抑制と燃料の削減に取り組みます。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	泉大津営業所	コード (1112)	エネルギー（電気）使用に関するデータ管理 エネルギー使用のデータ管理	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1125)	不要時の事務機器電源オフや照明の消灯を心掛ける。 不要時の事務機器の電源オフ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1122)	冷暖房の温度設定を最適に行う（冷房28℃・暖房20℃） 空気調和設備の運用改善	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123)	乗務員にエコドライブ（急発進・急ブレーキ・急ハンドル・アイドリング等）の推進をしていく。 エコドライブの推進	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2126)	配送コースの見直しを随時かけていく。 輸送の効率化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2224)	関係者・協力会社を増やし、協力して共同配送システムを構築していく。 輸送効率の向上に向けた協力	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

<p>冷凍冷蔵庫の温度確認を行ない、季節や日々の温度調整を行う。</p>
<p>空調設備の入替</p>

照明器具のLED化

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル21階	氏名	株式会社かんでんエンジニアリング 代表取締役社長 青嶋 義晴
特定事業者の主たる業種		6総合工事業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は、発・変電・送配電からなる電力供給インフラの構築、保全を図る技術をコアに、電気設備から情報通信、商品、石油事業にいたるまでの幅広い領域で事業展開しています。なお、大阪府内では7事業所を配置しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,104 t-CO ₂	3,265 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,456 t-CO ₂	3,627 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	0.9 %	2.4 %	26.6 %	25.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	3.2 %	26.4 %	25.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府下事業所の延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度の平成26年度と比較すると、温室効果ガス総排出量は5%増。 これは、平成28年度より節電対策の緩和を行ったこと、さらに平成28年度に大阪北支店・大淀事業所・堺事業所の3拠点が大阪北事業所に統合され、大阪府下事業所の延床面積が大幅に増加したことが要因であると考えられる。

(2) 推進体制

当社は関西電力グループCSR行動憲章に基づき、具体的行動計画として年度計画を策定し、積極的に推進しています。また、毎月全社の電気使用量等のエネルギー使用実績を集約し、改善等を実施しています。なお、各事業所においてそれぞれの実情に応じた節電対策に取り組んでいます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	レ					
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) クールビズの実施	クールビズ(5/1~10/31)を継続実施しています。 ・軽装(ノージャケット、ノーネクタイ)による執務の実施 社屋照明を減らす	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪北事業所	コード (1218) 照明設備の導入	社屋建替時、省エネ効果の高い照明設備(LED)を導入します。(年間10t-Co2削減)。	2016 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	レ					
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全車エコドライブの継続実施し、前年度対比燃費を1%向上を目指す。(年間5t-Co2削減)。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 低燃費車の導入等	車は全てリース。年度更新時、低燃費車やハイブリット車等を優先導入する。(年間10t-CO2削減)	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区中之島3-3-23	氏名	関電不動産開発株式会社 代表取締役社長 勝田 達規
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に不動産賃貸業を行っており、大阪府内でビルを所有している。 また、店舗等の賃貸施設を所有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	21,246 t-CO ₂	25,002 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	23,838 t-CO ₂	28,089 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	9.6 %	5.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	9.9 %	3.1 %	4.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の賃貸床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>[主な事業所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電対策が緩和になったが、影響の無いものについては、継続しているため削減に至った。 ・省エネルギーに勤めたことや、LED省照明の導入により削減に至った。 <p>[主な事業所以外]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電対策が緩和になったが、影響の無いものについては、継続しているため削減に至った。 ・省エネルギー計画を立案し計画通り実施したことにより成果が上がった。
<p>平成27年度は通常の事業活動を超えて節電の取組みを行ったため、基準年度は平成24年度から平成26年度の平均値を用いている。</p>

(2) 推進体制

- ・特定事業者として、会社全体のエネルギー管理体制の確立と省エネルギー推進委員会を設置している。
- ・すべての事業所において、毎月のエネルギー使用量および電気需要平準化時間帯の電気使用量を把握し、それぞれ前年度比較し対策を検討する。

- ・中長期計画の作成時に、省エネシステム機器およびピークカット・ピークシフト機器の導入検討を行う。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大淀昭和ビル	コード (1217)	エレベータをワードレオナード方式→インバータ方式へ更新 (年間5.03t-CO2を削減見込み)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱		エレベーター改修		
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	堂島関電ビル	コード (1216)	2階展示系空調機更新 (年間23.58t-CO2を削減見込み)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堂島関電ビル	コード (1216)	11階食堂系空調機更新 (年間5.70t-CO2を削減見込み)	2016年度 ～ 2016年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	新宇治電ビル	コード (1216)	1階東系統空調機更新 (年間4.21t-CO2を削減見込み)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	新宇治電ビル	コード (1216)	各階補助空調機更新 (年間37.60t-CO2を削減見込み)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード (1216)	1・3・5階空調機更新 (年間6.14t-CO2を削減見込み)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード (1216)	2・6階空調機更新 (年間20.46t-CO2を削減見込み)	2016年度 ～ 2016年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	茨木昭和ビル	コード (1216)	4・7階空調機更新 (年間5.63t-CO2を削減見込み)	2017年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		空調機更新		
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111)	エネルギー管理統括者、企画推進者を設置し、各部門、支店に担当者を置いて、定期的に会議体を開催し、省エネ意識の高揚、情報共有を図っている。	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		省エネ推進体制の整備		
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	全事業所	コード (1199)	共用部の照明消灯、間引き	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		照明消灯、間引き		
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	全事業所	コード (1199)	テナントへの省エネに対する依頼。 (執務室内で不使用エリアの消灯など)	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		省エネ運用依頼		
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	関電ビルディング 他2ビル	コード (1199)	空調温度条件の変更 (室内温度：冷房時28.0℃、暖房時19.0℃)	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		空調温度設定		
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	関電ビルディング 他2ビル	コード (1199)	執務室の照度調整 (300ルクスまでの減灯)	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱		照明の照度調整		
	レ	平準化				

14	レ	GHG排出	関電ビルディング 他2ビル	コード (1199) 昇降設備の一部 停止	エレベーター等の間引き運転 階段利用の促進	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	南関電ビル 他8ビル	コード (5999) 蓄熱設備の利用	蓄熱槽による夜間蓄熱利用	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	南関電ビル 他15ビル	コード (5999) 電気温水器他の 停止	夏季の電気温水器停止、温度設定変更	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2122) 出来る限りの公 共機関の使用	関係者に情報連絡会議で協力依頼する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2199) アイドリングの 停止	関係者に情報連絡会議で協力依頼する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市南亀井町4-4-24	氏名	株式会社カントラロジ 代表取締役 中山 幸雄
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、貨物自動車運送事業を行っており、全国で9営業所を展開し、うち、大阪府内では4営業所を展開している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,530 t-CO ₂	2,919 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,530 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	7.4 %	10.4 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

トップランナー燃費基準達成車両への代替えを平野営業所で1台、美原営業所で2台、貝塚営業所で4台、港営業所で3台行ったため。

(2) 推進体制

<p>・大阪府内の営業所は大阪府トラック協会主催のグリーンエコプロジェクトに参加し、燃費データの適正な管理及び各営業所管理者が2か月度に講習に参加、エコドライブ教育の実施について教育を頂き、営業所にて従業員に教育を実施、エコドライブの向上に努める。</p>
<p>・本社にて車両G管理の専門部署を設置し、営業所各管理者と協力し、適切な車両配置及び低燃費車の導入、管理・教育体制を構築しております。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	平野営業所	コード (2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に4台、28年度に4台、29年度に1台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	貝塚営業所	コード (2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に2台、28年度に3台、29年度に4台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	港 営業所	コード (2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に1台、28年度に2台、29年度に3台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	美原営業所	コード (2121) トップランナー燃費基準達成車の導入	平成27年度に2台、28年度に4台、29年度に2台のトップランナー燃費基準達成車を代替え導入致します。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

<p>・大阪府トラック協会主催のグリーンエコプロジェクトへ参加し、適切な燃費データ管理及び従業員へエコドライブを指導する管理者へ講習にて教育方法を指導していただき、従業員へ指導を行う。</p>